



(2) 米づくり

町のほとんどの農家は、米づくりをしています。会津高田町は、土地がこえ、水や気候などの自然条件にもめぐまれ、たいへん米づくりに合っています。また、病気や害虫の発生も少ないです。

春になると、農家の人は、苗箱にひ料をまぜた土を入れ、消どくした種もみをまき、発芽器に入れ、芽が出そろったところでビニールハウスの苗代にうつし、苗を育てます。苗が育つあいだに田にひ料をやり、田おこしや水を入れて代かきをします。苗の葉が、3、4まいぐらいいになったとき田植え機で田植えをします。また、近年ヘリコプターで種もみをちよくせつまく方法も広まりつつあります。

夏には、水がなくならないように田を見て回ったり、ざっ草がはえないように、草かりや除草剤をまいたりします。また、病気や害虫からいねを守るため、ヘリコプターや消どく機などで何回か消どくします。

秋にいねが実ると、コンバインでかりとり、かんそうさせてからもみすりをしてJA（農協）などに出荷します。

米づくりの仕事は、機械を使って、早く、楽にできるようになりましたが、いねの花が咲き、実る時期に日照不足や低温、台風などにみまわれ、不作になることもあるので、農家の人の心配はたえません。